



Report

2月7日から11日まで、プラザおでってで開催した「もりおか市民協働推進フォーラム」の様子を写真で紹介します。

もりおか市民協働推進フォーラム

講演／NPO法人いわてGINGA-NET 代表 八重樫綾子さん



NPO法人いわてGINGA-NET代表の八重樫綾子様

◆全国の学生ボランティアと岩手の被災地をつないだのが「いわて GINGA-NET」です。

◆ワカモノの“つよみ”と“よわみ”について解説。条件が揃えば長期的な協働が可能で若さ・体力がある反面、想いをカタチにする能力に乏しく、経済的な基盤がないと紹介されました。

◆県立大学在学中に「Do Nabe Net（ドナベネット）」の活動などから、学生が地域活動に関わりを深めた事例を紹介。地域と学生が守り、守られる関係を築き、鍋を囲むことから自転車によるパトロールなどの活動が生まれた事例を紹介しました。

協働推進事例紹介／「Waのまちリースプロジェクト」・「地域ねこプロジェクト」



Waのまちリースプロジェクトについて発表する盛岡市林政課の平山久枝主査



地域ねこプロジェクトについて発表する盛岡市保健所生活衛生課の松館恵子主任獣医師

◆豊かな盛岡の森林環境を守りながらまちをもっと楽しくしようと取り組んだ「Waのまちリースプロジェクト」。企画立案団体と市だけでなく、森林組合や岩手大学などとも連携することで課題を解決できた事例が紹介されました。

◆地域住民が主体となって飼い主のいない猫を管理する「地域ねこプロジェクト」。行政と動物愛護団体、地域住民によるボランティアや町内会などとの連携により不妊手術による繁殖頭数の抑制などの効果があったことが紹介されました。

地域協働事例紹介／城南地区・青山地区・本宮地区



城南地区地域づくり委員会委員長の下田啓太郎様



青山地区まちづくり協議会会長の遠藤政幸様



本宮地域協働協議会会長の菅原吉男様

◆各地区から、地域の概要や地域づくり計画策定までの経過や取組内容、課題や成果などについて発表されました。

◆城南地区では、中学生のスノーバスターズや八幡町界隈由緒板などの取組を紹介。さまざまな意見をまとめることや広い地域で活動することの難しさ、計画の実現に向けた組織、人材確保などの課題も発表されました。

◆青山地区では、あいさつ運動や雪あかりなどの取組を紹介。活動の幅が広がり、活動への期待が高まる一方でスタッフの確保が課題となっていることなども発表されました。

◆本宮地区では、ワークショップで地域課題が浮き彫りとなり「地域の未来像」を共有できたことを紹介。事務局機能としての場所や機器の確保が課題と発表されました。



長寿写真撮影ボランティア事業について紹介する(株)ヒヤマフォトスタジオの 樋山 桂 様



環境保護や復興支援などについて紹介する(株)ベアレン醸造所の 寫田 洋一 様



携帯電話教室や地域を元気にする盛り上げる取り組みについて紹介するモバイルコミュニケーションズ(株)の 齊藤大輔 様

◆ヒヤマフォトスタジオからは「長寿写真撮影ボランティア事業」について紹介されました。平成元年から取り組んでいるものですが、当時はCSR（企業の社会的責任）という考え方はなく、地域への恩返しという思いで始めたボランティア活動ということ。通常の業務だけでは、学ぶことができない貴重な社員の社会勉強の機会になっていることなどが発表されました。

◆ベアレン醸造所からは、空き瓶の回収や照明のLED化、イベントでのごみゼロ活動など、小さな会社でもできる環境への配慮の取組が紹介されました。また、復興義援金付商品や

イベントの展開など、いわてを元気に盛り上げる取組も発表されました。

◆モバイルコミュニケーションズからは、携帯電話教室の開催などの取組が紹介されました。携帯電話販売店を展開する同社では、携帯電話を販売する企業として、危険性と利便性のどちらも知って、安全に利用いただきたいという想いと、防災情報などを発信する行政からの「携帯端末に慣れ親しんでほしい」との要望からはじまったことが紹介。また本来のサービス提供など、企業としての責任を果たした上で、企業だからこそできる活動で貢献したいと発表されました。



~Report~

盛岡市職員特別研修

平成26年1月20日と22日の2日間・全3回の日程で、盛岡市職員特別研修「地域協働」が実施されました。

はじめに、市民協働推進課から「盛岡市の地域協働と（仮称）盛岡市市民協働推進指針について」説明した後、盛岡市市民協働推進アドバイザーで岩手県立大学総合政策学部の倉原宗孝教授が「参加・協働によるまちづくりー地域協働がめざすものー」と題して講演しました。

倉原教授は、北海道での行政と住民との協働実例や青山地区におけるまちづくりの実例を紹介しながら、「協働は、『今日、どう？（きょうどう）』と声をかけあうように、他者への思いやりや働きかけ。特別なことではなく、本来、あたりまえのこと」「協働することが目的ではなく、よりよい暮らしや社会を目指す方法のひとつである」などと説きながら、職員の心構えなどについてご講演いただきました。



この職員特別研修は、盛岡市地域協働推進計画に基づいて実施されているもので、主任から次長級までのおよそ1000人の職員が対象。本年度は約600人の職員が受講し、平成23年度からの3年間でほぼすべての職員が受講しました。

このほか、市は、新採用職員研修や初級職員研修などで体系的な職員研修を行い、人材育成に努めています。